

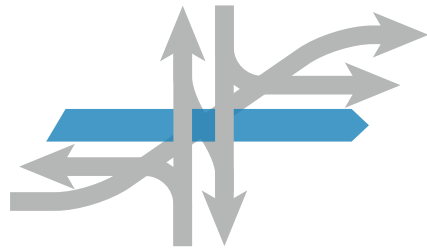
多世代交流の融合により、地域社会への貢献を目指します。

高齢世代が増えた荒田地区において、地域の拠点となる複合型施設を計画します。当法人が培ってきた地域福祉のノウハウを生かし、もともと地域に住んでおられる高齢世代の皆様の安心した住まいの提供だけでなく、若年世代の雇用や保育にも貢献する事を目指します。

若年世代と高齢世代とが同じ場所を共有する事で、「荒田のまち」は、若年世代が移り住みたくなる魅力ある地区として生まれ変わります。

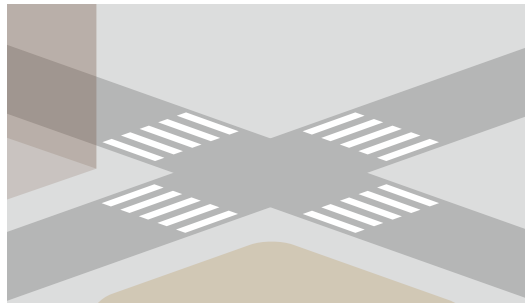
計画コンセプト「世代交差点（ジェネレーション・ジャンクション）」

当該地周辺地域は、近年、古くからの家屋を取壊し、新しい住居建築が進むなど、若年世代の流入傾向が見られます。その流入傾向を更に促進させるため、幼少期から介護期まで全ての世代が活用し交流が図れる多世代交流複合福祉施設「世代交差点（ジェネレーション・ジャンクション）」を提案します。



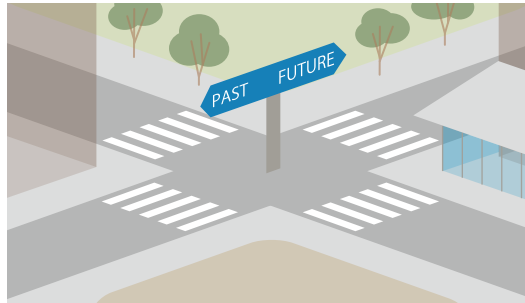
1 地形としての交差点

- ・当該敷地は、交差点に面しています。
- ・交差点の付近には、新湊川と天王谷川の合流地点があります。
- ・菊水山と湊川駅の間ほどに位置し、緑とまちとの交差点ともいえます。



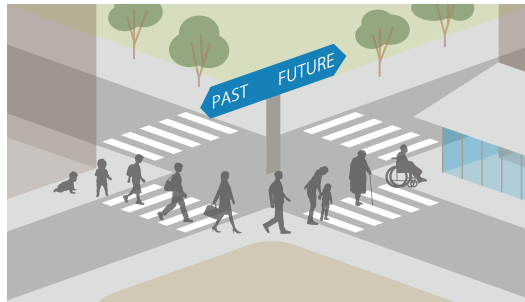
2 過去と未来の交差点

- ・かつては荒田小学校のグラウンドであり、交差点の向かいには校舎がありました。荒田小学校が閉校して5年、この敷地はグラウンドの姿のままになっています。
- ・新たな施設の建設がきっかけとなり、この場所と地域が、未来へと動き出します。



3 多世代の交差点

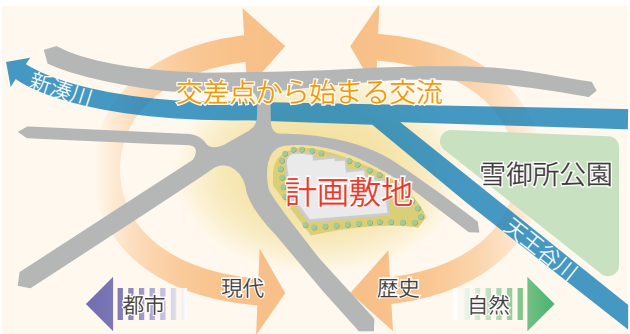
- ・新たな施設として、子どもから高齢者まで様々な世代が集える場所となるコミュニティカフェ、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、ショートステイ、保育所を整備します。
- ・新しい人の流れが生まれ、まちが活性化します。
- ・人々が集い交流することで、荒田のまちは、歴史を尊重しながら明るい未来へと進んでいきます。



周辺住環境とのかかわり

敷地は新湊川に天王谷川が合流する場所にあり、近辺には平清盛が雪見の御所をおいた歴史的な場所があります。かつてここは周辺地域の児童減少等を受け、小学校4校統合事業により平成27年（2015年）に惜しまれつつ106年の幕を閉じた荒田小学校がありました。

一方で近年の当該周辺地域は、古くからの家屋を取り壊し、新しい住居建築が進むなど、若年世代の増加傾向が見られています。これはまちの活性化、空家空地対策等を考える上でとても好ましい状況であります。



ユニバーサルデザインの徹底

年齢・性別・国籍・障害の有無に関わらず、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインの視点で施設づくりを行います。

- ・サインは絵・色・形を工夫し、高齢者にも幼児にも、障害のある人にもわかりやすい表示とします。
- ・どの場所をどの世代が利用するかもとに、手摺や表示の高さ、トイレの仕様などを決定します。
- ・感染症予防のため、高齢者施設への入口と保育所への入口は分けて設けます。多世代の交流も図れるように、外部に連絡通路を設けます。

地球環境の保全に向けた取り組み

低炭素社会の実現

地域の自然と共生し、消費エネルギーの削減を目指します。

- ・Low-eペアガラスの採用（日射遮蔽性能と断熱性能の向上）
- ・LED採用による省エネとメンテナンス頻度の低減
- ・昼光センサーによる自動調光
- ・人感センサーによる自動ON/OFF
- ・外壁・屋根の高断熱化による冷暖房負荷の低減
- ・内装の木質化

木材利用の促進等へ向けた配慮・取り組み

内装材を木質化することで、快適でやさしい空間づくりを行います。

コミュニティカフェ	保育園	廊下等
床 フローリング	壁 木製腰壁	一部 木製腰壁

コスト縮減

イニシャルコストとランニングコストの両面から、ライフサイクルコストを考慮して最適なコスト縮減計画を提案します。

イニシャルコスト縮減案	ランニングコスト縮減案
整形な建物 延焼線のかからない配置 一個別認定が必要な防火設備（建具）を採用する必要がある 柱間を広げる 一柱本数を減らし杭本数を減らす	維持管理のしやすい建物 一耐候性や防汚性のある外装仕上 一耐衝撃性や耐水性に考慮した室内仕上 一更新性を考慮した個別エアコン 一バルコニーによる日射カットと外壁のメンテナンス性アップ

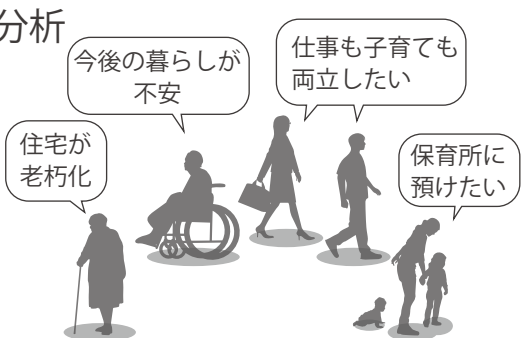
若年世帯の流入を促進し、まちが生まれ変わる道筋をつくります

本計画では、サービス付き高齢者向け住宅と保育所をはじめとした、福祉の複合施設を整備します。これにより、若年世帯の流入傾向を促進させ、にぎわいのあるまちに生まれ変わります。

フェーズ 1

高齢者と若年世帯が抱える問題の分析

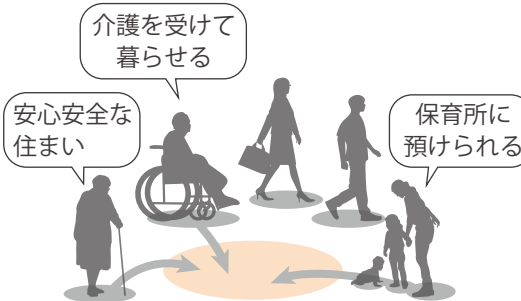
独居や高齢者単独世帯で、今後の生活に不安を感じる高齢者の方々がいます。また、子どもが産まれても仕事を続けられるか不安を感じる、子どもを保育所に預けたくても預けられないといった悩みを抱える若年世帯がいます。



フェーズ 2

複合施設の整備

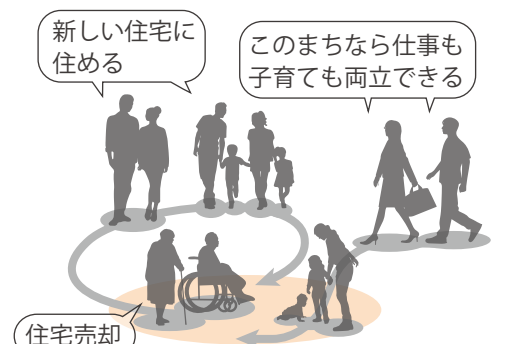
高齢者に向けてサービス付き高齢者向け住宅やショートステイを、若年世帯に向けて保育所を設置します。また、人々が集えるカフェや、保育所の子どもと高齢者が触れ合える談話室、小学校の思い出が詰まったミュージアム等を整備します。



フェーズ 3

若年世帯の流入

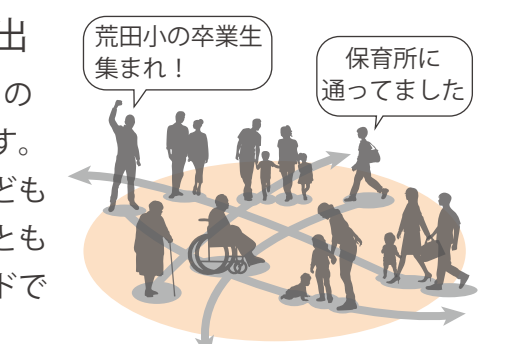
保育所の整備により、若年世帯にとって荒田の魅力が向上します。また、高齢者がサービス付き高齢者向け住宅に入居することで、老朽化した住宅が更新され、まちが活性化されるとともに若年世帯の流入が進みます。



フェーズ 4

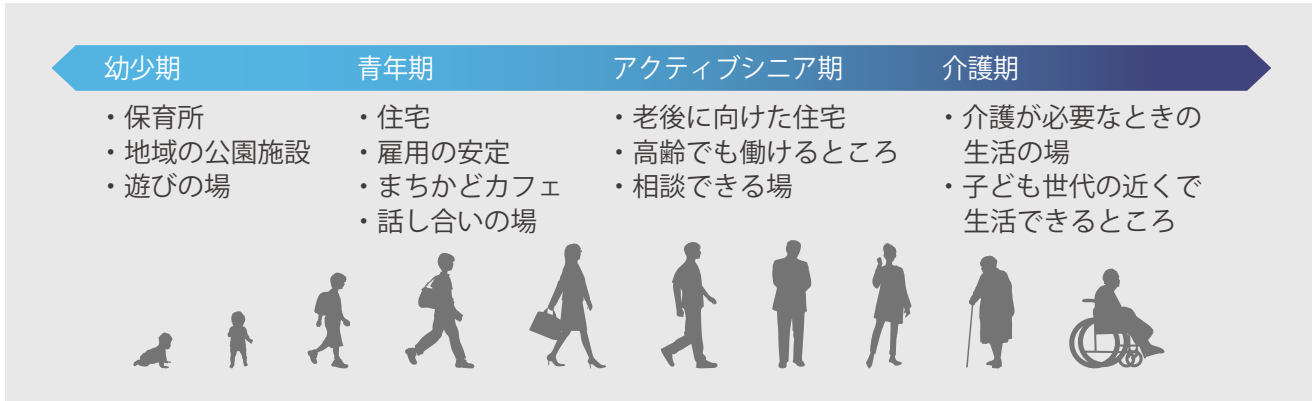
多世代の交流によるにぎわいの創出

複合施設には、「世代交差点」のコンセプトのもと、多世代が交流できる仕組みがあります。交差点に開かれたカフェでは、高齢者、子どもたちやその親たちだけでなく、地域の人びとも集います。かつて、荒田小学校のグラウンドであったときのにぎわいを取り戻します。

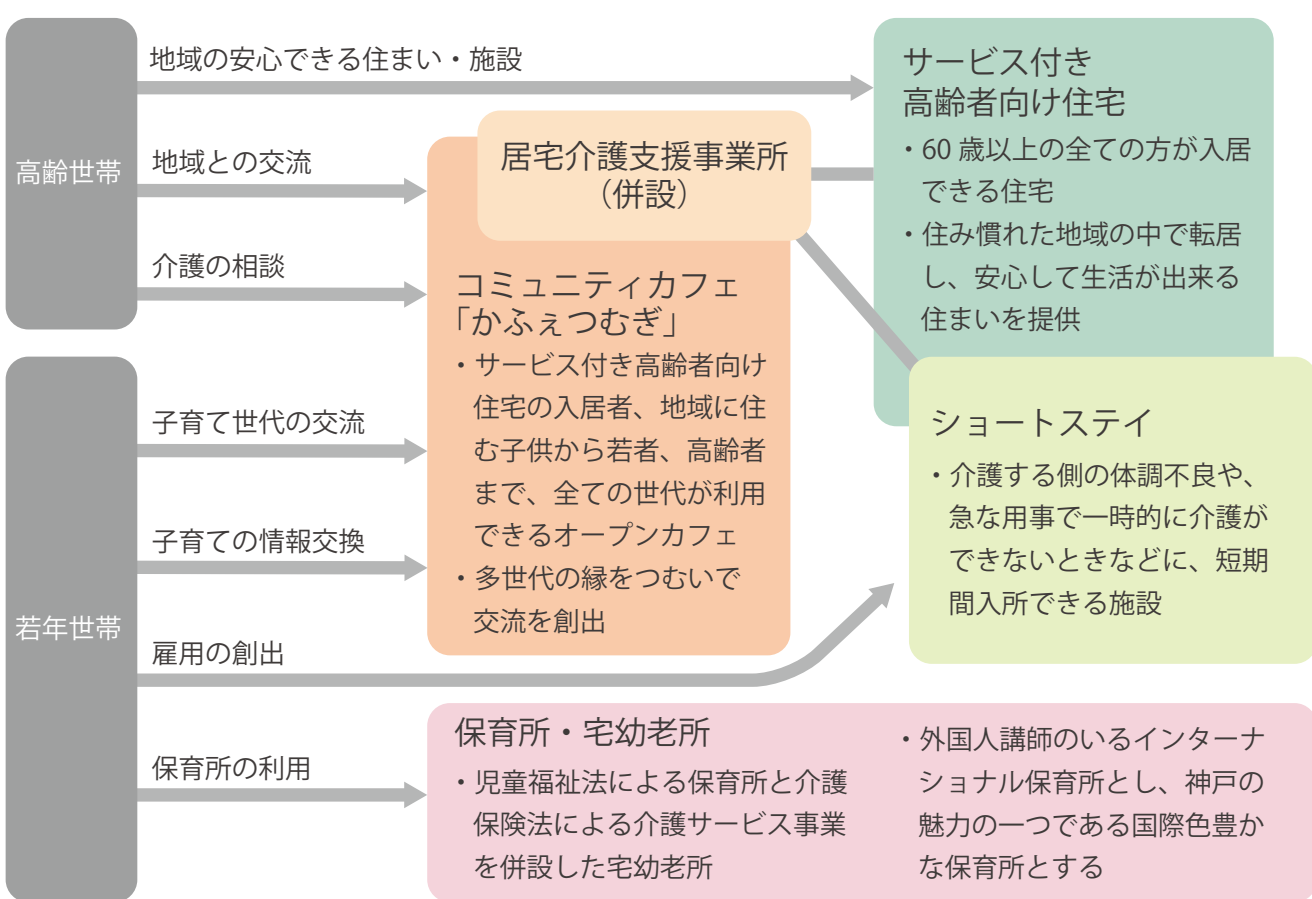


各世代のニーズの理解を深めます

にぎわいの創出に向け、まず、各世代のニーズを理解します。その上で、どんな問題を抱え、どんなサービスが必要とされているのかを確認します。

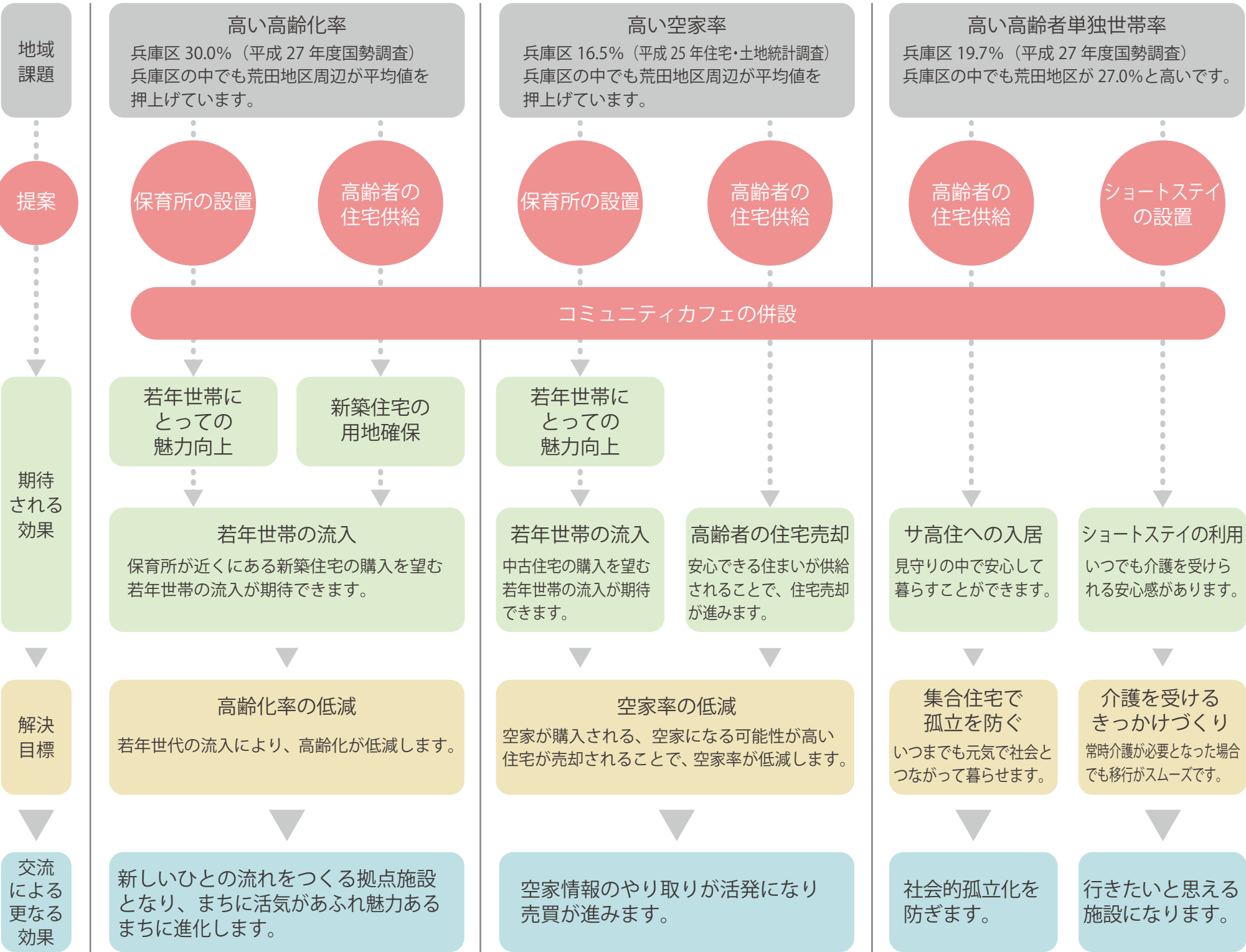


ニーズに応える5つの施設機能（サービス）



地域特性の十分な理解と種々の課題に対する最適な提案を行います

地域の諸課題を解決し、人々が住みたくなる魅力あるまちへと進化していく為の施設づくりを進めます。
ジェネレーション・ジャンクションの核となるコミュニティカフェを併設する事により世代を超えた交流を誘発し、それぞれの課題に対しさらなる効果を上げる事ができます。



敷地の特徴を踏まえた計画とします

- ・当該敷地は市バス路線からは離れているため、法人送迎車を利用した送り迎えを行います。渋滞を引き起こさないよう送迎車の寄り付きは、敷地内に余裕を持ったスペースで確保します。また、地域に目を配りながら周回運転を行い、安全・安心につながる防犯機能を果たします。



< 法人の所有する送迎車両 >

- ・自転車利用が多い地域であるため、駐輪場は利用者にとって分かりやすい位置に十分な台数を設けます。
- ・近隣に要介護施設（特養・老健・ケアハウス）や自立可能高齢者住宅（有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅）が少ないため、今回の施設ができる事により、潜在的需要の解消が図れます。

